

島前高校だより

プロフェッショナルに学ぶ!

島前高校では、島前各地域に存在するプロフェッショナルを講師として招いたり、その講師のもとに出向いたりして、島前地区のことについて学んでいます。

3年生 家庭科(食文化)

子どもの頃には感じなかった、食べ物への感謝などの思いを実感してほしいと考え、北分区の但馬屋さんの協力のもと実習を行いました。

生徒たちは素足で田んぼに入り、土の感触を味わいながら、みんなで一列に並び、苗を大切に抱え一つ一つ丁寧に植えていきました。

今後は、田んぼの草取りを行い、稲刈り後は藁を活用しての実習も継続して行っていく予定です。

〔生徒の感想から〕

自分たちの為に田んぼを貸してくださったので、失敗しないように緊張しながら田植えをしました。今回の田植えを経験して、知らなかったことをたくさん知ることができました。普段食べている身近な

お米が、これまでにたくさんの人々の思いでつくられていることが分かり、本当に良かったです。苗一本でたくさんのお米ができてきます

が、これからはその一粒一粒を大切に食べたいです。日本人なら、田植えの体験を一度はするとよいと思いました。



2年生 地域学(島前神楽)

地域学とは、2年生の地域創造コースの生徒が学ぶ、本校にしかない独自の科目です。島前地域そのものを教材として、地域の魅力や課題を多岐にわたって学びます。その中で、地域文化を継承し未来を担っていく子どもたちを育てることを狙っています。

今回の授業では、石塚さんをはじめ5名の方に講師として来校いただきました。島前神楽の迫力を肌で感じるとともに、基本的な拍子のとり方などの実技指導を受け、生徒も伝統文化のおもしろさに触れることで、文化の継承者としての自覚が芽生えるきっかけとなりました。2学期からは自分たちで取り組みたい

テーマを設定し、島前地域の課題解決に向けて企画を考え、実行していきます。生徒たちの活動にご協力をお願いします。



〔生徒の感想から〕

これまで、神楽を見たことはありませんでしたが、あれだけ近くで見ると、圧倒された感動しました。今日は先払いを見たのですが、また機会があれば他の演目も見たいです。私が地域で見た先払いには「獅子」がいるのですが、「天狗」だけというのもまた違う感動があるなと思いました。

〔夢探究(1年生)〕

5月に入り、1年生の「夢探究」では「学ぶ姿勢づくり」を狙いとして授業を進めています。6月4日は隠岐国学習センターの豊田庄吾さんをお招きし、講義を受けたりゲームをしたりしながら、『主体性(やるべきことを自分で見つける)』・『関係性(自他の違いを、互いに尊重し合う)』・『社会性(互いの強みを活かしながらの役割分担)』・『創造性』の大切さなどを学びました。

授業後の、「今日の授業、すげえ面白かった。」という生徒の言葉が印象に残りました。

〔生徒の感想から〕

本当に会社をつくらんと、今日のゲームのようなことをするんだらうなと思いました。自分達で協力して、役割を決め、物を作り、売る。時には苦しみ、だんだん成長していく。もちろん、他の国や会社とかかわりを大切にしながら経営していく。そういうところが、地味にリアルで面白く、達成感も味わえた気がします。

そして、自分がリーダー的な役割を意外と楽しんでいることに気がきました。こういう役割も好きなんじゃないかと思いました。責任を持って、みんなを束ねるところがすごく楽しかったです。こういう役は今まで苦手だと思っていたので、自分でも驚いています。また、そういった自分を見つけたことがとても嬉しいです。今後、新しい発見をしたいです。



今回のテーマは…
諏訪湾の生き物

オオヨシキリ

ふなとよ
講座



「ギョギョシ、ギョギョシ」5月に入ると諏訪湾の葦原から、にぎやかなさえずりが聞こえてくるのに気付かれた方も多いのではないのでしょうか。さえずりの主は、スズメ目ヨシキリ科の「オオヨシキリ」(*Acrocephalus arundinaceus*) という和名の野鳥です。この鳥、5月になるころ日本に渡ってくる夏鳥であり、その鳴き声から「行行子」という夏の季語にもなっているほど、日本人には古くからなじみ深い存在のようです。夏鳥というのは、南の暖かい地方で越冬し、春になると日本列島に移動して繁殖活動をする野鳥のことです。オオヨシキリはその名前のとおり通常は葦原を好んで生活しているため、その環境が失われると生きていくことができません。全国的に見ても、葦原が減少していることにより13県が絶滅危惧種に指定(※1)しているほどです。海士町でも数年前まではあちこちに葦原が残っていたため、さえずりが各所で聞こえ、季語の表すとおり「夏がくるんだな～」と実感することができました。しかし、最近ではまとまった葦原はほとんどなくなり、わずかに残った諏訪湾の葦原が最後の砦といったところでしょうか。

オオヨシキリの繁殖は、どなたもお馴染みのウグイスと同様、一夫多妻制により行われます。先行して葦原に渡ってきたオスの個体がまず縄張りを確保し、縄張り内で盛んにさえずりながら後で渡ってくるメス達を待ちます。盛んなさえずりに魅了された複数

のメス達が縄張り内で巣作りに取りかかるのです。より力強く頼もしそうなオスがよくモテると思われ、この辺は人間界とは多少異なるのかもしれませんが。確保した縄張り内に他のオスが進入してこようものなら激しく攻撃し追い出しにかかります。時には怪我をするほどの争いになります。縄張りを形成できるかどうかは自分の子孫繁栄に大きく影響するからです。

今まで隠岐ではオオヨシキリの公式な繁殖記録がなく(※2)、私としては諏訪湾の葦原に期待しています。というのは、昨年11月にその葦原でオオヨシキリのもと思われる巣を発見したからです！(下写真)

実際に繁殖しているかどうかはこれからの調査を待つことになります。本土の広大な葦原では広い縄張りを確保してい



るのに対し、諏訪湾の葦原ではとても手狭な面積で子育てをしなければならず、本当にこんな狭い場所で繁殖が可能なのか疑問が残るところです。オオヨシキリだけでなく葦原を必要としている多くの生物にとって豊かといえる環境を広げていきたいと願うところです。

(海士町文化財保護審議委員 深谷治)

(※1) NPO 法人野生生物調査協会・NPO 法人 Envision 環境保全事務所作成 日本のレッドデータより

(※2) 日本鳥類目録 改定第7版 日本鳥学会編集